NY エッセイ 109

中瀬有紀

デザイナーの世間話



ブライアント公園とニューヨーク市立図書館

新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いします。

仕事の種類によって休暇のスタイルは様々ですが、ニューヨークの年末年始休暇はだいたい元旦の一日だけで、年末年始よりもクリスマス前後に長く休むのが最もよくある休暇パターンです。11月の感謝祭と12月のクリスマスを家族のための二大休暇と考えているアメリカ人が多く、「11月に夫側の親戚を訪ねたので12月は私側の親戚に挨拶に行く」と友人の一人は話していました。したがって友人同士の集まりは、「ホリデーパーティ」と称した忘年会が12月中に執り行われたり、1月1日に「ニューイヤーパーティ」を開く人もいます。元旦は冬の長期休暇最後の祝日で、1月2日よりいつもの生活に戻ります。

私は今年で渡米してから13年目となりますが、長い間パーティが大嫌いでした。パーティに行って何をするかというともっぱら英会話で、英語に自信がないとパーティが楽しいはずありません。幼い頃から英語教室に通ったり、中学時代は英語の授業が好きだったり、英語を嫌うことは一度もありませんでした。そのためか、学校の授業で先生が話す英語にはすぐに慣れ、テストに出てくるようなフレーズをほぼ問題なく理解できるようになるのに一年もかかりませんでした。ニューヨークで照明デザイナーとして働くようになってからも、確かにクリアカムでの会話はハードルが高いですが、デザインの打ち合わせやプレゼンテーションで自分の英語が大きな障害になっていると感じることは少ないです。むしろ演出家や共同制作者が日本語訛りの英語を話す私の主張をしっかり聞き入れてくれて、私も彼らの求めていることを理解し、強い繋がりを構築できていることに驚くほどです。なのに、いつまでたってもパーティの英語だけは厄介です。それは世間話の難しさを証明しています。

世間話を英語では「チットチャット（chit-chat）」と言いますが、今日の天気に始まり、相手の洋服や髪型を褒め、そして家族やペットがどうしてるかがよくある導入部分で、劇場関係者のパーティだと今誰とどこで何の仕事をしているのかがその次にくる話題です。また相手の出身地が明確な場合はその国の話題を挙げることが頻繁にあります。例えば、私が日本人であることは名前から察することができるので、日本の時事や文化について知りうる限りの情報を話題にあげて私に話す機会をあげようとするのは、話し相手の優しさでしょう。チットチャットがプレゼンテーションよりも難しいのは、万全に準備することがほぼ不可能に近いためです。背景の音楽や雑踏でより一層相手の声が聞き取りにくい環境で、話題に全集中力を注ぎ、要点を理解して会話を深める一言を発するのは日本語でも難しいですね。

チットチャットが簡単になったわけではありませんが、私は一昨年ほど前からパーティが嫌いではなくなりました。それは、なんとなくアメリカ社会で生きていくと腹を括ったこと、ネイティブ・ニューヨーカーのように英語を聞き話すことができないことに劣等感を抱かなくなった（というか思い悩むことに疲れて吹っ切れた）こと、そして何よりニューヨークで知り合うクリエーター達が好きで彼らに会いたい気持ちがパーティ嫌いを超えました。昨年末のデザイナーが集まる忘年会であがったチットチャットは、オーロラの色について、月光と薪で照らされた舞台公演のこと、メイン州の自然の美しさなどでした。今年は11月に大統領選挙があるので、これまで以上にチットチャットに政治の話が話題に上がるでしょう。